

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年1月30日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100397		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グループホーム ふれあい戸坂山根		
所在地	〒732-0002 広島県広島市東区戸坂山根1-1-19 (電話) 082-220-2050		
自己評価作成日	平成28年12月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100397-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100397-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年1月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・入居者の日々の生活・身体状況などの変化を把握し スタッフ全員にて共有し、毎日の生活が[その人らしい] また、その人が望む生活が送れるように、家族とも密に連絡を取り合い支援している。また体調など崩した時など 看護師・医師の連携が取れており、指示を仰ぎ対応している。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者は、昨年10月に着任したばかりで、この1年間の特徴的な取組みとして、第一に、「改善と継続」を挙げ、利用者・家族が「ここに来て良かった」と思える事業所作りを目指して、職員と協力して成長している。「生活づくり10か条」を基本指針として、利用者毎に担当者を決め、不穏な利用者ともゆっくり話す機会を設け、その方の思いを把握して、信頼関係の構築に努めている。第二に、認知症カフェに関する取り組みによる地域交流の深化がある。地区のふれあいサロンの中に、昨年11月に開設された認知症カフェ「さくらカフェ」の立ち上げに参加した。また、今年度の事業所の年間重点事業方針は、「利用者との共創」・「セルフ・リーダーシップ」・「職員に対する相互理解」・「創造的に考え行動する」を掲げ、そのために、その人らしい生活の第一歩である、「活動しやすい座位」を大事に考え、食事・排泄・入浴の場面でそれらを実現するための介助方法や、物的環境整備に工夫をしている。更に、その介護力を担保するため、法人独自の「マイスター制度」という、2年更新のキャリアアップ制度を導入し、上質なサービスが提供できる人材の育成を図っている。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念と「生活づくり10か条」を基本とし、日々、ご利用者の「その人らしい生活」とは何かを考え、実践している。	母体法人の理念・目標の下に、事業所の年間重点事業方針が立てられ、法人の「生活作り10か条」をケア目標として、日々の実践に繋げている。併せて、職員個人の業務目標管理も導入し、職員は理念に沿った目標設定を毎年行い、半期毎に管理者との個人面談の中で、理念・目標の実施状況について、達成度を検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近くのスーパーでの買い物・散髪・喫茶等 利用者が地域に出る機会を、多く設けるようにしている。町内会長と連携し、地域の行事に参加し、地域の方と交流出来る機会を設けるようにしている。	日頃から近所への散歩や買い物・理美容院での地域交流を深めている。町内会に加入し、「とんど祭り」、町内清掃等の地域行事や地区の認知症カフェに参加したり、職員の繋がりで、フラダンスのボランティア訪問等、相互交流も為されている。又、「亥の子祭り」で地域児童との世代間交流や、オープン・カフェの開催希望等、気軽に立ち寄れる場所作りにも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症介護アドバイザーの資格を有する介護支援専門員の下、地域からの相談や見学に来られた方に、誠意を持って対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、ご利用者、ご家族、地域の他施設、地域包括支援センター等の方々と意見交換、情報交換を行っている。それらを基に サービスの向上に努めている。	運営推進会議は、近隣の法人グループホームと合同で定期的に開催され、利用者、時に家族代表、地域住民代表として、時に町内会長・老人会会長、近隣の介護施設や作業所、行政から地域包括支援センター職員が参加している。事業所の現況報告が、参加者との率直な意見交換や相談ケースへの助言等と共に行われ、サービスの質の向上に繋げる取組みが為されている。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	認知症介護アドバイザーの資格を有する職員が、認知症サポーター養成講座の講師を務めたり、地区の認知症カフェに参加し、地域包括支援センター・民生委員の方との連携に努めている。	運営推進会議には、時に地域包括支援センター職員が参加し、情報共有を図ると共に、その開催報告書・議事録は区担当者に提出している。又、地域包括支援センターからの要請で、認知症介護アドバイザーの資格を有する職員が、認知症サポーター養成講座の講師を務めたり、地区の認知症カフェに参加して、行政・地域住民との地域協力を深めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>研修において、身体拘束をしないケアの重要性について周知徹底している。ご利用者がいつでも外へ出ることが出来るように、環境を整え、外出したい時は、常に職員と一緒に付き添い対応している。</p>	<p>法人全体で「身体拘束排除マニュアル」を策定し、内部研修を通して、職員は「拘束はしない」必要性を認識し、具体的なケアの中で、実践を重ねている。例えば、日中は玄関を施錠せず、その方の思いを把握し、フロアドアのセンサーにて見守りを行っている。利用者によっては、柵による拘束を避け、ベッドに赤外線離床センサーを設置し、リスク管理に努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修において、虐待防止の周知徹底を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在 後見人の手続きを行っているご利用者がいらっしゃるので 今後も踏まえ、制度の理解を深める勉強会を行いたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>重要事項説明書及び契約者を提示し、契約の締結、解約、改定について、具体的に説明している。入居後もご家族の不安等については リーダー、各担当者を中心に、誠意を持って対応している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご利用者、ご家族の意見や要望を、日常の面会時や電話連絡の際に伺うようにしている。また、個別の外出や外泊等の要望にも、出来る限り協力し、対応している。</p>	<p>利用者の意見は、日々の職員との会話を通じて把握し、家族とは面会時や毎月の定期連絡時、介護計画更新時、毎年の家族会や運営推進会議等で、把握する様に努めており、それらを記録し、職員間で共有している。運営に反映された例として、結婚記念日に夕食をとるという要望に対し、利用者を職員が送迎し、夫婦・娘を交えた会食へと外出支援をした事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のリーダー会議、全体会議において、管理者、リーダー、現場職員との意見交換を行い、運営に反映するように努めている。	基本的には、月1回のリーダー会議、年1回の全体会議及び随時又は半期毎の個人面談で、職員の意見等を聞いて、運営に反映するよう努めている。それらの会議での意見交換により、利用者の身体状況に応じた環境整備や、更衣に関するケアの統一、また利用者の排泄状況に応じた、細やかな清掃が実施されるようになった経緯がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人内で評価基準が明確にあり、職員個々の努力により、給与水準や、役職等向上することが出来るようになっていく。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内には教育研修部があり、職員それぞれの状況に応じた研修が、数多く受けられる様になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等との連携を密に行い、情報交換等の連携を図っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初回面接時には、ご本人の不安や要望を聴くことに重点を置き、信頼関係を構築するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>サービスの利用開始から、家族の困っている事、不安、要望をしっかりとお聴きし、信頼関係が構築できるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>電話や面接等の相談時には、ご本人やご家族のニーズを把握し、問題点を整理した上で、その後のサービスの提案を行っている。また、画一的にグループホームを勧めるのではなく、他のサービスの提案・紹介も行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>「共にある」と言う考えを大切にし、一緒に行える事は一緒にしている。どんな時でも、寄り添うようにしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>グループホームに入居したら、在宅へは戻れないという考えを無くし、常に家族との関係を大切にし、外泊や外出を薦めている。外泊・外出時には、車椅子の準備や注意点を記入したシートを作成しお渡しする等、出来る限りの援助を行っている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>利用者の知人・友人の来所時には、職員は暖かく出迎え、気兼ね無く訪問して頂けるよう努めている。又、馴染みの場所への外出時には、職員が付き添い対応している。</p>	<p>「気軽に訪問できる事業所作り」を心掛けており、その旨を契約時から伝え、関係継続の支援をしている。訪問した家族と利用者の知り合いとの間で、共通の話題で盛り上がることもあった。管理者が変わったばかりで、馴染みの場所への外出支援はこれからだが、家族とも「共にある」関係作りを進めていきたいとする意向がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事席やリクエーションの席の配置等、ご利用者の関係に配慮し、設定している。職員が間に入り コミュニケーションがスムーズに行え、関係づくりが円滑に行えるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	これまでに事例は無いが、今後、在宅復帰されるご利用者がいれば、安心して生活出来るように、フォローできる環境を整えたい。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者の思いを把握する為に、話やすい環境をつくり、傾聴している。会話などから要望を把握した上で、表現できるように全職員で取り組んでいる。	利用者毎に担当者を決め、出来るだけ利用者と一緒に話す機会を設け、本人の思いを把握するようにしている。その情報は職員会議等で共有している。例えば、編み物好きの利用者が、息子さんのクリスマスプレゼントにマフラーを編むのを職員も手伝ったり、花好きの利用者に水やりをお願いして、枯れそうな花を蘇らせた例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	各ご利用者に担当職員を配置し、入居時にご家族・ご本人の話に基づき ライフストーリーを作成している。入居後も情報収集を行いながら、得た情報は、職員全員に周知するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	法人内の状態レベルシートを活用しながら、心身の状況について、職員全員が把握するようにしている。また身体的・精神的に不安のある方は、適切に看護師と連携を取り、問題解決に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画作成に当たっては、初めにご本人・ご家族とカンファレンスを行い、希望を取り入れた計画を作成している。また、専門的立場から、その方にあったケアを抽出し合い、担当スタッフが中心となり 全員で作成にあっている。</p>	<p>職員に利用者毎の担当制が布かれ、他職員の意見も踏まえ、計画担当者が原案を作成し、本人・家族の意向を反映して本案としている。毎月のモニタリングで、担当利用者の状況や気づきを計画担当者に報告し、集約している。計画の見直しは、基本的に半年毎に検討している。カーブの中継を見ている時は落ち着かされている利用者のために、球場観戦を計画した事例がある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録は、全スタッフが確認することを徹底している。その中で課題がある場合は、必要に応じて個別記録の記載内容を活かしながら、介護計画の見直しを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>医療面では医師・看護師・歯科医師等と連携を行い、介護現場のケアに活かしている。また、管理栄養士やその他外部からも助言を貰いながら、サービスに反映している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>周辺の医療、消防、警察と連携を図り、安全で快適に生活できるようにしている。また、近くのタクシー会社や理髪店にもグループホームを知って頂いているので、緊急時には支援して頂ける関係を構築している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時にかかりつけの病院、医師の情報を伺い、スムーズな受診が行えるようにしている。</p>	<p>利用者全員が協力医を主治医とし、母体の協力医療機関から週に1回、定期的な訪問診療を受けている。また、特変時には、母体系列の訪問看護師からの支援を受けている。専門医等の受診は家族同行が基本だが、殆ど事業所が対応している。認知症についても、母体医院院長が「もの忘れ・認知症相談医」(オレンジドクター)であり、いつでも対応が可能である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	法人内の訪問看護師と連携し、24時間の電話連絡が出来る。急変時には、適切な看護や受診が受けられる体制が出来ている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時は医師からの紹介状だけでなく、介護職員が付き添い、日頃の情報や急変時の情報を説明している。また、入院中も面会回数を多くしている。退院時は、管理者が退院時カンファレンスを行い、スムーズな退院につなげている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	グループホームとし、終末ケアを行う方針であり、入居時に、ご本人、ご家族から意思を伺っている。主治医の判断で終末期ケアへの移行が必要となった場合は、治療方針、ケアの方針を、ご本人、ご家族、医師を交えて話し合い、終末期ケアへ臨んでいる。	利用開始時に、「終末期の看取り等について」で方針を説明し、事前確認書で意向を把握している。看取り対応の際は、改めて「看取り介護についての同意書」にて同意を得、「看取りに関する指針」に従って、適切な支援を行っている。協力医との医療連携の下、定期的なカンファレンス等を開き、家族と共に「穏やかな最期」に寄り添う体制作りに取り組んでいる。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	年1回、法人内で消防署に協力していただき、救命講習を開催し、参加している。法人内の医療、看護より指導、助言を受けている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年2回行われる避難訓練では、消防署の立会いの下、初期消火と避難誘導を主体に行っている。防火管理者が日頃より避難経路や防火点検を行い、確認している。また、職員に対しての通報訓練等を防火管理者を中心に行っている。	消防署の立会いの下、年2回の避難訓練を夜間想定、利用者参加を含め実施している。避難経路や1次避難場所からの避難階段も幅広く取られている。又、自主訓練として防火管理者を中心に、通報訓練等を実施している。更に緊急時には、母体法人の事業所から、人員や物資の後方支援も可能な体制が整備されている。	事業所内での災害対策は、法人内の各事業所相互でマニュアル等、一定のシステム連携が図られている。しかし、地域との協力体制については、管理者の異動直後でもあり、具体的な災害時相互支援体制作りが課題となっている。今回、町内会に加入したのを契機に、協力要請や地域での防災訓練にも参加する案等、地域との協力体制作りへの取り組みを期待したい。



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけは十分配慮している。トイレや浴室前にはプライバシーを守る為、カーテンを設置し、中が見えないよう配慮している。	新人研修での接遇研修や内部研修で、職員の幅広い知識の習得とスキルアップを図る体制もあり、それらにより、職員も利用者目線に対応し、尊厳に配慮出来るようになった。例えば、誤嚥のため、汚れた衣服の着替えを取りに行くため、利用者の居室への入室許可を求めた経緯がある。又、車いすがトイレからはみ出す場合は、カーテンで覆える等、環境面への配慮もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来る限り、本人の思いや希望を引き出すように努め、可能な限り、ご本人の意思を尊重するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	外へ出たいご利用者に対しては、散歩やドライブへ出掛けたり、食事の時間もご本人の食べたい時間に出来る限り合わせる等、希望に沿えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服や靴、化粧道具など、ご本人と買物へ行き、購入している。朝の整容は環境を設定し、出来ない方は支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	それぞれの好みを把握できるよう、聞き取りを行い、メニューに反映している。準備や後片付けを一緒に行い、食事時には職員も一緒に楽しみながら食べている。	朝・昼食は、法人指定の業者の献立により、調理された食材が運ばれ、事業所で加熱・盛り付けを行っている。食事形態も、むすび・刻み・ペースト等に対応可能である。夕食は職員が考え、食材をスーパーで購入している。又、利用者にも皮むき・食器洗い等、出来る範囲での手伝いをしてもらっている。更に、利用者の個々に応じたテーブル・椅子等、食事環境面にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	食事、水分は、それぞれのご利用者に合 わせた形態で提供している。1日の水分 摂取量は1500ccを目標とし、認知症ケア の基本を徹底している。食事量、水分摂 取量は、個別に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、必ず、ご自分で出来ない方には 援助し、口腔ケアを行っている。訪問歯 科を利用しており、必要な利用者は往診 により、口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	出来る限り、紙オムツを使用せず、トイレ で排泄が出来るよう取り組んでいる。	その日の摂取水分量や運動量も含む「生活状 況記録」で、排泄パターンを把握している。 ここでは、特殊な手すりを設置し、便座に 座って倒した手すりに寄りかかり、腹部に力 を入れ、自力で排便し易くする工夫や、車い すから便座に移乗し易く、且つ尊厳を守る為 に、トイレの外に目隠しカーテンを設置して いる。更に排泄の自立支援として、紙パンツ から布パンツに改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	基本である食事、水分、運動に関して、 職員全員が理解し、取り組んでいる。特 に、運動面では、毎日、遊びリテーショ ンを行い、排便を促す運動を行ってい る。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	最後まで、健常に近い入浴ができるよう に、環境を整えている。環境設備と職員 の介護技術の向上に努めている。入浴の 時間やタイミングは柔軟に対応し、入浴 を楽しんでいただけるように努めてい る。	週2回の午後入浴を基本とするが、利用者の 体調や入浴習慣に合わせ、好みの入浴温度・ 時間やシャワー浴・足浴で対応する等、柔軟 に関わっている。入浴は、半埋め込み式家庭 浴槽での個人浴となっており、浴槽に移乗し 易い可動式入浴台を設置して、入浴支援をし ている。時には、入浴剤を使って寛いでもら うこともある。法人内の独自の研修体制で、 入浴の介助力を高めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	リビングにソファを多く設置し、休みたい時に、楽な姿勢で休める環境を整えている。夜間しっかりと休めるように、日中は、メリハリのある生活が出来るよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ご利用者の担当職員が服薬リストを作成し、確認できるように、一覧にしてファイリングしている。往診時には、主治医へ日常の様子について報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	嗜好品については、ご本人、ご家族の希望に沿い、提供している。掃除、洗濯、料理等役割を持って生活されている。ご本人の希望に沿い、外出、ドライブ等気分転換を随時、行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご本人の希望による買物や外出は、個別に対応し、急な外出希望であっても、ドライブや散歩等に対応している。又、一緒に日々の食材の買い出しに行っている。	普段から、希望により、少人数で近所の散歩や買い物等を楽しんでいる。又、年度計画書で毎月2名程度の個別外出を計画している。天気の良い日の外気浴、近くの喫茶店で敬老会、郊外の大型商業施設での買い物や、系列事業所の送迎車を借りての花見等、普段は行けないような所へ外出し、「非日常」を楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在、お金を持っているご利用者は無く、立替えという形で買い物をしていただいている。要望があれば、ご本人、ご家族の同意の下、お金を持つことも可能である。その際は、金銭管理帳を作り管理している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望により、事務所での電話の取次ぎを行っている。携帯電話を所持しているご利用者もいる。携帯電話の使い方が分からないときには、職員が支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共有スペースには、温度計、湿度計を設置し、管理している。食堂、浴室、トイレは清潔を保つよう心がけている。</p>	<p>居心地良い場所になるよう、職員が毎日掃除し、また、フロアと台所の履物を区別し、清潔に配慮している。フロアには、利用者製作の塗り絵や職員と作った季節の飾りつけを掲示し、会話の糸口になっている。食堂には、配置を変えられる6角テーブルと適切な高さの椅子、浴室には可動式入浴台、トイレにも特殊な手すりを設置する等、自立支援に資する環境整備が為されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共有スペースには、テーブル席の他、ソファを用意し、1人になれたり、他者と交流できる場、環境を整えている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご本人が、自宅で使っていた慣れ親しんだ家具や品物を持ってきていただき、馴染みの物に囲まれ、安心して生活できるよう配慮している。</p>	<p>居室にはベッド・エアコンが設置され、使い慣れた物や天体望遠鏡・オーディオ類・電子ピアノ・俳画等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様に工夫が為されている。又、ベッドの代わりに布団を敷いたり、利用者によっては柵による拘束を避け、赤外線離床センサーの設置により、ベッドからの転倒・転落防止を図り、安全な環境も整備されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>自立した生活ができるように、数センチ単位で椅子を個別に設置し、自立支援につなげている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい戸坂山根

作成日 H29年3月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	防災管理において地域との協力要請など行っていない。	地域での防災訓練等の参加・地域との協力体制作りへの取り込みを行う。	社協等に相談し町内会に持ち上げ そこから動いてみる	6 か月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。